

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 文化財修理報告書を刊行する。 (東京国立博物館) 1) 「東京国立博物館情報アーカイブ」等の運用をし、「東京国立博物館情報アーカイブ」等、インターネットを活用した収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2) 紀要・図版目録等を刊行する。 3) 法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 4) 研究誌『MUSEUM』を刊行する。(年6回)								
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長 勝木言一郎					
【実績・成果】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1) 『東京国立博物館文化財修理報告』XVIを刊行した。また今号から一部市販を開始し、文化財の保存に関する情報の普及を図った。 (東京国立博物館) 1) (東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号2411参照)。特集印刷物のうちPDFファイル版3件を東京国立博物館ウェブサイト上に公開し、研究情報の普及を図った。 2) 『紀要』51号、『図版目録 近代日本画篇(卷子・画帖)』を刊行し、収蔵品に関する研究情報の発信につとめた。 3) 『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXVI 古今目録抄2』を刊行し、収蔵品に関する調査研究の成果の発信につとめた。 4) 研究誌『MUSEUM』655～660号を刊行し、文化財研究に関する情報発信につとめた。 ○特別展図録・特集図録・特集印刷物等を編集、刊行し、文化財情報の普及を図った。 ○『東京国立博物館セレクション』を刊行し、収蔵品に関する国内外への情報発信を強化した。 ○『登録有形文化財東京国立博物館黒田記念館改修工事報告書』を刊行し、文化財の保存に関する情報の発信につとめた。 ○出版企画委員会6回、『MUSEUM』『紀要』等編集委員会7回を開催し、博物館の出版事業の円滑化を図った。								
【補足事項】 ・『MUSEUM』(年6回) ・定期刊行物(4件) 『紀要』51号、『文化財修理報告』XVI、『法隆寺献納宝物特別調査概報 XXXVI古今目録抄2』、『図版目録 近代日本画篇(卷子・画帖)』 ・特別展図録・特集図録・特集印刷物等(9件) ≪特別展図録≫『鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝』、『クレオパトラとエジプトの王妃展』、『始皇帝と大兵馬俑』、『生誕150年特別展 黒田清輝 日本近代絵画の巨匠』 ≪特集図録≫『トーハクのみイラ』、『漢・唐時代の陶俑』 ≪特集印刷物≫「養生と医学」、「東京国立博物館コレクションの保存と修理」、「国宝 鷹見泉石像」 ・その他(16件) a. 編集・刊行 『セレクション 北斎』、『セレクション おひなさまと日本の人形』、『登録有形文化財東京国立博物館黒田記念館改修工事報告書』 b. 改訂 『ハンドブック』(日本語改訂版、英語改訂版、中国語改訂版)、『日本美術50選』(日本語改訂版、英語改訂版)、『法隆寺宝物館』(改訂版)、『水滴 動物や野菜をかたどった水いれ』(改訂版) c. 増刷 『上海博物館 中国絵画の至宝』、『能面 創作と写し』、『横河民輔コレクション 中国磁器名品選』、『天翔ける龍』、『図版目録 インド・インドネシア染織篇』、『図版目録 中世古文書篇』								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26
『MUSEUM』発行	6回	6回	B		6	6	6	6
定期刊行物	4件	—	—		3	4	4	4
特別展図録・特集印刷物等	9件	—	—		12	10	14	13
その他	16件	—	—		2	4	2	12
【年度計画に対する総合評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 刊行の実績値が26年度に比べ高くなっており、その事業も順調に進んだため。							
【中期計画記載事項】収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価: B	【判定根拠、課題と対応】 博物館における出版刊行事業を通じて、調査研究の成果が十分発信し、中期計画を順調に実施できた。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (東京国立博物館、京都国立博物館) 1)文化財修理報告書を刊行する。 (京都国立博物館) 1)研究紀要『学叢』を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分の概要を順次ウェブサイトで公開する。 2)社寺調査報告書等を刊行する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 浅見龍介					
【実績・成果】 1)『文化財保存修理所報告書 13』を刊行した。 1)研究紀要『学叢』第37号を刊行し、ウェブサイトに創刊号から27号までのPDFを公開した。 2)『社寺調査報告書27』を刊行した。 ○特別展等の図録を3巻刊行した。								
【補足事項】 ・『学叢』第37号で、論文、資料紹介、作品研究、研究随想を、それぞれ1本発表した。 ○特別展覧会等図録(3巻) ・桃山後期に焦点をあてた狩野派の展覧会としては、過去最大規模となる、国宝1件、重要文化財23件、重要美術品1件、初公開作品4件を含む70件を出品し、百花繚乱のごとくその才能を花開かせた狩野派絵師たちの競演と戦いの歴史を紹介する特別展覧会「桃山時代の狩野派 永徳の後継者たち」を開催、調査結果を盛り込んだ図録を刊行した。 ・大正天皇の即位式を記念して始まって以来、毎年開催されている仏教行事「大蔵経」が100回目という大きな節目を迎えることを記念して、仏教經典の総集である「大蔵経(一切経)」の歴史を現存する遺品から紐解くとともに、関連する書跡、絵画や工芸品もあわせて紹介する特別展覧「仏法東漸 仏教の典籍と美術」を開催、調査結果を盛り込んだ図録を刊行した。 ・本阿弥光悦が徳川家康から鷹峯の地を拝領して400年となることを記念し、琳派誕生の地である京都において初めて開催される本格的な琳派展として、特別展覧会「琳派 京を彩る」を開催し、調査結果を盛り込んだ図録を刊行した。								
								
特別展覧会「桃山時代の狩野派」図録			特別展覧会「琳派 京を彩る」図録					
【定量的評価】 項目	27年度実績	目標値	評価	経年変化	23	24	25	26
定期刊行物	3件	—	—		3	3	3	2
特別展図録・特集陳列印刷物等	3件	—	—		4	5	2	3
【年度計画に対する総合評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 特別展覧会「桃山時代の狩野派」、「琳派 京を彩る」及び特別展覧「仏法東漸」の展覧会図録を編集するなど、館藏品や古社寺の文化財の図録を刊行して研究成果の発信を着実にいった。また研究誌である『学叢』を発行して学術研究成果を公開し、創刊号から27号まではウェブサイトにて公開した。							
【中期計画記載事項】 収藏品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 展覧会図録・研究紀要などを予定通り刊行するとともに、インターネットでの公開を行い、中期計画に沿って着実に研究成果の普及を行った。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (奈良国立博物館) 1)研究紀要『鹿園雑集』を刊行するとともに、学術研究公開の一環としてウェブサイトで公開する。 2)入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。 3)東京文化財研究所と共同で実施している絵画作品などの光学的調査について、報告書を刊行する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 内藤 栄					
【実績・成果】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)文化財修理に関する調査研究成果は、研究紀要『鹿園雑集』内に包摂する形で刊行される(28年8月予定)。 (奈良国立博物館) 1)研究紀要『鹿園雑集』は、27年度内に編集作業を進めた(28年8月刊行予定)。 2)地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、以下の企画を実施した。 ・仏像写真展「大和の仏たち」(27年4月1日～28年3月27日) ・(パネル展)開館120年記念「写真でたどる奈良国立博物館のあゆみ」(27年7月18日～28年3月27日) 3)光学的調査で得られた画像データの分析を行い、その成果を盛り込んだ調査報告書第1冊(全3分冊のうち)を年度内に刊行した。								
【補足事項】 ○展覧会図録等9冊を刊行した。 『まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展』(特別展図録) 『名匠三代一木内喜八・半古・省古の木工芸一』(特別陳列図録) 『白鳳一花ひらく仏教美術一』(特別展図録) 『開館120年記念 写真でたどる奈良国立博物館のあゆみ』(パネル展小冊子) 『第67回正倉院展』(特別展図録) 『The 67th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録) 『おん祭と春日信仰の美術 一特集 御旅所一』(特別陳列図録) 『伊豆山神社の歴史と美術』(特別陳列図録) 『お水取り』(特別陳列図録) ○「第67回正倉院展」にあたっては、読売新聞紙上に展示品紹介の連載を5回実施した。								
								
刊行した展覧会図録等9冊								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経年変化	23	24	25	26
定期刊行物	0件	—	—		—	1	—	1
特別展図録・特別陳列印刷物等	9冊	—	—		5	6	6	10
研究論文等発表実績	27件	—	—		29	31	22	22
【年度計画に対する総合評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 入場無料ゾーンでのパネル展示を充実させ、博物館事業の成果を発信することができた。これは、なら仏像館休館中の来館者サービス向上策の一環でもある。							
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 調査・研究の成果は、展覧会に関わる刊行物を中心に発信できている。研究紀要についてはインターネットでの公開を実施済みで、中期計画を順調に遂行した。しかしながら、その他の刊行物の電子書籍化はなされていない。図版の著作権問題など、クリアすべき課題が多いが、引き続き検討しなければならない。							


中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)文化財修理に関する印刷物を刊行する。 (九州国立博物館) 1)研究紀要『東風西声』を刊行する。 2)保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生					
【実績・成果】 (奈良国立博物館、九州国立博物館) 1)28年度実施で予定していた文化交流展示「文化財を守り伝える博物館」を27年度から開始することとなり、展示構成や作品選定、パネルの作製等に時間がかかり、印刷物を作成する余力がなかった。28年度以降は計画的に進めたい。 (九州国立博物館) 1)研究紀要『東風西声』第11号を刊行した。 2)科学的調査の成果を集めたシンポジウムを行い『X線CTを用いた文化財の研究と活用』を刊行した。 ・当館文化交流展示において修理完成披露展示を行った。 ・文化財保存のための講演会等を開催した。								
【補足事項】 1) 研究紀要『東風西声』では、論文8本(うち当館職員6本)を掲載した。 2) 文化財の科学調査に関してシンポジウムを開催した。 27年12月19日「X線CTを用いた文化財の研究と活用」 ・当館文化財修復施設で修理を行っていた国宝尚家関係資料(那覇市所蔵)と扇面画帖(当館所蔵)について、文化交流展示室にて修理完成披露を行うと共に修理で得られた新知見をパネルで分かりやすく紹介した。 展示実施回数2回(展示期間:国宝尚家関係資料(27年4月28日～6月7日)、扇面画帖(27年8月25日～10月4日)) ・文化財保存のための講演会等を開催した。 韓国・中国の研究者による文化財保存交流セミナーを開催した。(27年5月28日) ○特別展図録・特集陳列等図録10冊を刊行した。 (うちトピック展示(特集陳列)図録4冊)								
								
扇面画帖の修理完成披露展示								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	23	24	25	26
定期刊行物 特別展図録・特集陳列印刷物等	1件 10冊	— —	— —		1 10	1 9	1 11	1 11
【年度計画に対する総合評価】 評定：C	【判定根拠、課題と対応】 科学的調査の成果を集めたシンポジウムや修理完成披露展示などを行なうことによって研究成果を市民に還元することができた。文化財修理に関する印刷物を刊行するという計画は、修理に関する平常展示の準備等で達成できなかった。28年度は計画的に進めていきたい。							
【中期計画記載事項】収藏品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 予定通りに出版物を刊行するなど、中期計画にそって順調に計画を達成している。							


中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施							
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4) ICOM (国際博物館会議) 大会の日本への招致に向けた活動を促進する。 (東京国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館及び東アジア・欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。 2) アジア国立博物館協会 (ANMA) 理事会、IEO (国際展覧会オーガナイザー会議) 等の国際会議へ参加する。								
担当部課	学芸企画部企画課国際交流室	事業責任者	室長 鬼頭 智美					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 米国、中国、韓国、インドの4カ国の博物館・美術館等から計83人の研究者を招へいし、研究交流を行った。 2) オランダ、英国、ドイツ、フランス、米国、中国、韓国、シンガポール、タイなど10カ国の博物館、美術館等へ当館研究職員を47人派遣し、収蔵品及びその活用に関する研究を行い、現地の研究者と交流した。 3) 「大兵馬俑展」の関連事業として、国際シンポジウムを開催した。(27年12月19日)文化庁支援事業として国際シンポジウム「海外における日本美術コレクションの意義とその活用」を実施した。(28年1月30日) 4) 国際会議への参加を通して、ICOM京都大会への参加を呼びかけた。 (東京国立博物館) 1) 韓国国立中央博物館及び中国・上海博物館、北京・故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流・派遣を行うとともに、海外での文化財調査や特別展等共同事業の企画・実施準備、国際会議出席のため海外に研究員を派遣、調査研究及び海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。 2) 第5回アジア国立博物館協会 (ANMA) 理事会・定期大会に参加、アジア13カ国の国立博物館の代表者と交流・情報交換を行った(27年11月26日)。また、IEOに研究員を派遣し、欧米を中心とした主要美術館の展覧会企画・実施責任者との意見交換・ネットワークの強化を図った。(27年4月22日～24日ニューヨーク)								
【補足事項】 1) 上記研究員招へい・派遣の人数については、当館予算で主体的に招へい・派遣した人数の延べ人数を示す。外部負担、科学研究費及び外部の助成金等による招へい・派遣を含む合計人数は、招へい83人、派遣99人であった。 (東京国立博物館) 1) 研究員の海外交流の成果を館内で共有するため、学術交流発表会及び派遣者報告会を実施した：①韓国国立中央博物館との学術交流発表会開催 (27年6月2日、27年12月1日)、館内計50人参加②韓国国立中央博物館及び上海博物館との学術交流派遣者報告会開催 (28年1月13日、3月16日) 館内計40人参加。 2) ・ANMAは、シンガポールアジア文明博物館で「政治、民族、芸術のバランス：国立博物館の役割」と題して開催され、理事13カ国からは40名余りが参加した。一般公開の定期大会では、円卓会議を含め、アジアの国立博物館が国と社会においていかなる存在として機能するかについて、多方面から活発な意見交換を行った。 ・IEOは、ニューヨーク近代美術館が会場となり、約100名が参加、展覧会実務の諸問題について討議、アジアとしては「中国における展覧会実施の諸問題」を提起、意見交換を行うとともに、各参加者との交流に努めた。								
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>第5回アジア国立博物館協会 (27年11月シンガポール)</p> <p>国際シンポジウム (28年1月)</p> </div> <div style="width: 35%;">   </div> </div>								
【定量的評価】 項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
海外からの研究者招聘	83 人	6人	A		16	11	21	47
海外への研究者派遣	47 人	6人	A		48	34	41	18
国際シンポジウム開催数	1 回	—	—		1	—	—	2
国際シンポジウム参加者数	284 人	—	—		323	—	—	422
【年度計画に対する総合評価】 評定： A	【判定根拠、課題と対応】 目標値を大幅に上回る人数の研究者交流を実施し、海外研究者との学術交流が進み、今後の展覧会等事業や研究交流につながっている。定期学術交流については、派遣人員の日程を調整しより長期に充実した内容での調査活動ができるようにしたい。							
【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。								
【中期計画に対する評価】 評定： A	【判定根拠、課題と対応】 中期計画を大幅に上回る研究者の招聘と派遣を実施し順調に遂行できた。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化																																																
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施																																																
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4) ICOM (国際博物館会議) 大会の日本への招致に向けた活動を促進する。																																																	
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 植田義雄 企画室長 浅見龍介																																														
【実績・成果】 (4館共通) 1) アメリカ、フランスの美術館より2名招聘し、意見交換等を行った。 2) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ17人派遣した。 (京都国立博物館) 1) 特別展覧会『琳派 京を彩る』に関連し、琳派400年記念祭委員会と共催で『琳派400年記念国際シンポジウム』を開催した(27年11月3日)。 2) ICOM「国際博物館の日シンポジウム」を京都国立博物館にて開催するにあたり協力した。																																																	
【補足事項】 (京都国立博物館) ・27年11月3日、メトロポリタン美術館よりキュレーター1名を招聘し、国際シンポジウムにてパネルトーク、意見交換等を行った。 ・27年12月14日、フランス国立ギメ東洋美術館より1名招聘し、学術交流協定に向けた意見交換等を行った。 ・27年4月10日～17日、当館研究員をアメリカフィラデルフィア美術館に派遣し、「Ink and Gold: Art of the Kano」展の展示作業に協力した。 ・27年5月14日～16日、当館館長が韓国国立中央博物館にて開催された「龍山再開館10周年国際学術大会」に派遣し、発表及び討論会にて情報交換を行った。また、国立現代美術館、梨泰院、サンソンリウム美術館などの視察を行った。 ・27年9月9日～11日、当館館長及び研究員を中国上海博物館に派遣し、国際館長会議に出席し、情報交換を行った。 ・27年10月26日～30日、当館研究員を中国マカオ芸術博物館に派遣し、国際シンポジウムにて発表を行うとともに、意見交換を実施した。 ・フランス国立ギメ東洋美術館と学術交流基本協定を締結した。(28年3月)																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>27年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th rowspan="5">経 年 変 化</th> <th>23</th> <th>24</th> <th>25</th> <th>26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外からの研究者招聘</td> <td>2人</td> <td>2人</td> <td>B</td> <td>21</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>海外への研究者派遣</td> <td>17人</td> <td>15人</td> <td>B</td> <td>25</td> <td>15</td> <td>19</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>国際シンポジウム開催数</td> <td>1回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国際シンポジウム参加者数</td> <td>200人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>150</td> <td>209</td> <td>—</td> <td>168</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26	海外からの研究者招聘	2人	2人	B	21	3	0	2	海外への研究者派遣	17人	15人	B	25	15	19	14	国際シンポジウム開催数	1回	—	—	1	1	—	1	国際シンポジウム参加者数	200人	—	—	150	209	—	168
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26																																									
海外からの研究者招聘	2人	2人	B		21	3	0	2																																									
海外への研究者派遣	17人	15人	B		25	15	19	14																																									
国際シンポジウム開催数	1回	—	—		1	1	—	1																																									
国際シンポジウム参加者数	200人	—	—		150	209	—	168																																									
【年度計画に対する総合評価】 評価： B			【判定根拠、課題と対応】 海外からの研究者招聘、当館からの海外派遣は年度計画どおり実施できた。																																														
【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。																																																	
【中期計画に対する評価】 評価： B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり、国際シンポジウムの開催、研究者の海外派遣等について実施できた。																																														





ICOM 国際博物館の日シンポジウム


中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施							
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：東京6、京都2、奈良6、九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：東京6、京都15、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4) ICOM (国際博物館会議) 大会の日本への招致に向けた活動を促進する。 (奈良国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 野尻 忠					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 中国・韓国の研究者等計13名を招聘し、今後の共同調査や展示活動等に関わる実りある情報交換を実施した。 2) 職員延べ14名を諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を図った。 3) 28年3月12日に「日本の古墳文化と新羅の陵墓文化」と題する国際研究集会を開催し、韓国国立慶州博物館の研究者2名及び当館の研究員1名が口頭報告した。 (奈良国立博物館) 1) 中国上海博物館、中国河南博物院、韓国国立慶州博物館との間で、学術交流協定に基づいて研究員等を派遣し、また招聘して、今後の共同研究や展覧会開催に向けて情報を交換した。								
【補足事項】 (奈良国立博物館) 1) 学術交流協定に基づき、以下の交流を実施した。 ・中国上海博物館から職員3名を10日間招聘し、当館から職員3名を10日間派遣した。 ・中国河南博物院から職員2名を1ヵ月間招聘した。 ・韓国国立慶州博物館から研究員2名を各1ヵ月間招聘し、当館から職員2名をそれぞれ6日間と17日間派遣した。 ○その他以下の交流を実施した。 ・27年5月12日、中国上海博物館の館長ほか一行6名を受け入れ、学術交流協定の調印式及び情報交換会を実施した。 ・開館120年記念特別展「白鳳―花ひらく仏教美術―」にかかる出陳品輸送にあたり、27年7月13～16日及び9月23日～25日に韓国国立慶州博物館研究員2名(各期間1名)を招聘し、輸送に際しての協力を受けた。 ・27年7月16～18日、韓国国立慶州博物館の館長を含む2名を招聘し、博物館活動について意見交換した。 ・27年10月22～24日、韓国国立慶州博物館の館長を含む2名を招聘し、博物館活動について意見交換した。 ・27年12月1日、モルディブ共和国の博物館員2名、ネパール連邦民主共和国の博物館員2名、スリランカ民主社会主義共和国の国家遺産省職員2名を受け入れ、当館における文化財の保存・展示活動について講義した。 ・27年12月10日、中国河南省洛陽市の文化財関係者6名を受け入れ、双方の文化財保護行政の状況につき意見交換した。 ・韓国国立慶州博物館で開催の特別展「日本の古墳文化」(会期：27年12月22日～28年2月21日)に特別協力し、当館研究員を展示作業及び撤収作業のために各2名派遣した。 ・27年6月10日～16日、当館研究員3名をイギリスへ派遣し、イーストアングリア大学美術館及び大英博物館において、日本美術品を調査した。 ・三星美術館Leeum (韓国ソウル特別市) への文化財貸与にあたり、展示品輸送随伴及び展示指導のため27年8月8日～11日と9月15日～17日に当館研究員1名を派遣した。								
								
河南博物院招聘者の現地研修 奈良文化財研究所にて								
【定量的評価】 項目	27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26
海外からの研究者招聘	13人	6人	A		20	7	9	9
海外への研究者派遣	20人	6人	A		19	17	8	13
国際シンポジウム開催数	—	—	—		—	—	—	—
国際シンポジウム参加者数	—	—	—		—	—	—	—
【年度計画に対する総合評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 海外研究者等の招聘・海外への研究者派遣とも、件数は例年並であった。それぞれの招聘・派遣時には有意義な意見交換・現地調査等を実施しているが、より一層の内容の充実を図っていく必要がある。							
【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間を通じ学術交流協定に基づく交流が堅調で、招聘及び派遣を継続できている。そのほか、他機関が招聘した海外研究者の国内での訪問先に当館を加えてもらうことで、海外の博物館や文化財行政について有用な情報を得ることができている。こうした訪問に関しては、今後も積極的に受け入れていく。							


中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施							
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。(18人：(他館内訳略)九州4) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(31人：(他館内訳略)九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 4) ICOM (国際博物館会議) 大会の日本への招致に向けた活動を促進する。 (九州国立博物館) 1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに学術文化交流協定を締結している海外博物館等との交流を活発に行う。 2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。								
担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 石橋伸二 課長 阿部 勝 課長 今津節生					
【実績・成果】 1) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存に関するセミナーを実施した。(27年5月28日：韓国)。オランダ文化遺産局長を招聘して日蘭交流に関する協議を行った。(28年2月15日～21日) 2) 当機構職員をベトナム、中国等、海外の博物館・美術館等に、研究交流及び特別展「美の国 日本」等のため、77人を派遣した。 3) 国際シンポジウム「九州国立博物館開館10周年記念『アジア交流博物館長サミット』」を開催した。 4カ国から16名の国立博物館等の館長及び学芸員を招聘し、各館の活動及び学術交流について報告を発表した。 (九州国立博物館) 1) 国際交流活動の推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。(タイ王国芸術局等) 2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存に関するセミナーや講演会を実施した。(27年5月28日：韓国国立海洋文化財研究所)								
【補足事項】 1) 27年度外国人芸術家・文化財専門家招聘事業(文化庁長官官房国際課)により、オランダ文化遺産局長を招聘し、当館の視察をはじめ、長崎県鷹島、平戸、長崎市などにある海事文化遺産及び日蘭交流に関する史跡の視察を行った。また、28年度以降の日蘭共同研究事業について協議を行った。(28年2月15日～21日) (九州国立博物館) 1) 学術文化交流協定に基づく交流事業により、タイ芸術局の調査団(27年9月22日～26日：15人参加)等を招聘し、共同研究や研究員等の交流を実施した。また、瀋陽故宮博物院から副院長、研究員を招聘し、専門的な内容の講演会を実施した。今後の特別展の開催や学術協定の締結にむけて、重要な意義をもった招聘となった。 2) 27年度文化庁委託事業「水中遺跡の保存活用に関する調査研究」の一環として韓国国立海洋文化財研究所より研究者を招聘し、各地の博物館等の視察及び当館で職員等を対象とした講演会を実施した。								
								
海外研究者講演会の様子								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経年変化	23	24	25	26
海外からの研究者招聘	51人	4人	S		21	3	16	35
海外への研究者派遣	77人	4人	A		56	60	87	82
国際シンポジウム開催数	1回	—	—		1	2	1	2
国際シンポジウム参加者数	80人	—	—		263	450	207	403
【年度計画に対する総合評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 研究者の招聘、シンポジウム等を着実に実施し、計画通り順調に進めた。							
【中期計画記載事項】文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画通り、招聘や国際シンポジウム、調査等を実施することができた。							


中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化									
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム									
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。										
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 高橋裕次							
【実績・成果】 文化財の保存修復に携わりたいと考えている学生、すでに携わっている社会人が、プロとしての能力を学ぶための広く開かれたセミナーをめざして実施しており、27年度は、18人の受講者があった。また、国内外で文化財の保存修理を学んでいる大学院生など4名を受け入れた。国内からの3人はインターンとして10日間、海外からは保存修理に携わっている学生1人が4ヶ月の期間で研修を行った。4人に対し館内で実施している環境保存、調査、修理の各分野の作業をともに行わせることで、臨床保存の実践方法について、多くのことを学ぶ機会を提供できた。										
【補足事項】 27年度から本格運用した大型エックス線CTスキャナーの撮影実習なども行えるようになった。										
										
撮影準備を見学するインターン生										
【定量的評価】項目		27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26	
保存修理事業者を対象とした研修会										
開催回数		1回	—	—		2	2	2	2	
参加者数		18人	—	—		37	47	48	37	
インターン受入れ		4人	—	—	4	4	8	2		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 国内外から安定的にインターンを受け入れ、大学教育と補完できる教育が行えた。講義に加えて、実際に業務を体験させることで、充実したプログラムを実施した。								
【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。										
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 例年、研修会には予想を超える応募者があり、盛況であるなど、中期計画を順調に遂行出来た。博物館におけるインターン制度についても認知が広まってきた。次期中期計画期間も時代の流れに対応した研修プログラムを更新していく。								

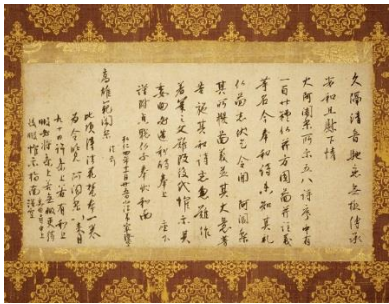
中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化									
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム									
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。										
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 大原嘉豊							
【実績・成果】										
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究院が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行った。また、2ヵ月に1回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。(巡回11回・会議7回) ・ 当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会を実施した。(計2回・126人) 27年 4月20日 「桃山時代の狩野派-永徳の後継者たち-」(66人) 27年10月19日 「琳派誕生400年記念 琳派 京(みやこ)を彩る」(60人) ・ 文化財修復に係わる大学院生(2人)のインターンシップ実習(27年8月17日～8月28日、9月7日～9月18日)を実施し、27年11月20日に口頭による報告会を開催し(出席者32人)、報告書を作成した。 ・ 国内外博物館における保存科学、修復の専門家等による文化財保存修理所の視察を受け入れ、情報交換等を行った。(計12回・60人) 27年 4月23日 独立行政法人国立文化財機構本部事務局(4人) 27年 5月28日 ポストンミュージアム(2人) 27年 6月 1日 大エジプト博物館、JICA(3人) 27年 6月22日 サムソン美術館(2人) 27年 7月22日 国立臺灣藝術大學美術学院(6人) 27年11月18日 敦煌研究院保護研究所、東京文化財研究所敦煌プロジェクト(3人) 27年12月17日 東京大学史料編纂所、元東京写真美術館専門調査員、北海道大学アイヌ・先住民研究センター、大分大学、東京大学、茨城大学、文化庁(10人) 28年 1月19日 上海博物館(5人) 28年 1月26日 ドイツ ドレスデン ツヴィンガー宮殿博物館、通訳(2人) 28年 2月 3日 台湾文化部文化資産局(1人) 28年 2月 4日 メトロポリタン美術館、クリーブランド美術館、プーシキン美術館、スコットランド博物館、リートベルク美術館、オレゴン大学シュニッツラー美術館、サンフランシスコ・アジア美術館、グラスゴー美術館、国立民族学博物館(ライデン)、ベルリン東洋美術館、ヴィクトリア&アルバート博物館、ポートランド美術館、キョッソーネ東洋美術館、東京国立博物館(20人) 28年 3月15日 スミソニアン研究機構 フリーア サックラー美術館(2人) ・ 保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を27年9月4日に実施した。(参加者22人) 										
【補足事項】										
<p>1) 文化財保存修理所巡回によって、修理技術者から文化財の修復状況について説明をうけ、当館研究員から専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修理技術者に対する定例の研修会においては、実際の文化財を目にすることにより、修理技術の習得や向上に資することができた。 ・ 文化財修復に係わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、修復技術の継承や今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。 ・ 保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は関係教育機関の間で周知が進み、参加校も増え、優秀な学生が参加するようになった。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行うことで、学生の意欲や目的意識の向上を図ることができた。 									保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会(27年9月4日)	
【定量的評価】項目		27年度実績	目標値	評価		23	24	25	26	
保存修理事業者を対象とした研修会				経年 変化						
開催回数	2回	—	—		4	4	3	2		
参加者数	126人	—	—	160	169	140	87			
インターン受け入れ		2人	—	—	4	3	4	1		
大学院生のための研修会参加者数		22人	—	—	13	29	18	19		
【年度計画に対する総合評価】 評価： B		【判定根拠、課題と対応】 26年度とほぼ同等の事業を遂行し目標を達成した。文化財修復に係わる大学院生インターンシップ実習の関係実施機関との連絡態勢も改善され、今後もより充実を図る。								
【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。										
【中期計画に対する評価】 評価： B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に記載した所期の目標を順調に達成している。保存修理の意義をより多くの国民に知ってもらうため、啓発活動のあり方を検討したい。								

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム							
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 鳥越俊行					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・保存修理技術者に対する研修会を28年1月20日に開催した。 ・海外の修理技術者等の視察を5回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。 27年9月24日：ボストン美術館学芸部長らによる視察・研修（5名） 27年10月29日：東京文化財研究所職員による視察・研修（1名） 27年11月26日：中国・寧波市文物局調査団及び元興寺文化財研究所研究員による視察・研修（10名） 27年12月1日：ユネスコ・アジア文化センターによるモルディブ、スリランカ、ネパールの国立博物館等に勤務する学芸員による視察・研修（10名） 28年3月1日：宮内庁正倉院事務所職員および宮内庁書陵部職員による視察・研修（8名）								
【補足事項】 1) ・文化財保存修理所技術者研修会 28年1月20日に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、装潢室工房代表者による修理に関する報告（「修理におけるデジタルデータ・機器の活用について」）を踏まえた討議を実施した。参加者は40名。								
								
文化財修理所技術者研修会の様子								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経年変化	23	24	25	26
保存修理事業者を対象とした研修会								
開催回数	6回	—	—		7	9	6	4
参加者数	74人	—	—		97	93	71	67
【年度計画に対する総合評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年度により増減があるが、26年度並みの実施となった。							
【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 海外修理技術者の視察等を継続して受け入れた。また、文化財保存修理所の修理技術者間の交流も研修会を通じて中期計画どおり実施した。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム							
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 今津節生					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・保存修理事業者を対象とした研修会等を開催した。(計1回・50人参加) ・インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を行った。(計2回・31人参加) ・文化財保存、IPM普及のための講座・研修を開催した。(計4回・98人参加)								
【補足事項】 ○保存修理事業者を対象とした研修会等 ・「文化財保存交流セミナー」 27年5月28日 50人参加 対象：一般 *27年8月25日にも予定していたが台風のため中止した。 ○保存修理事業者と協力した研修会 ・短期インターンシップ「文化財保存修復研修」 27年8月16日～21日 7人参加 対象：関西以西の大学・大学院で保存修復を学ぶ学生 ・「古文書保存基礎講座」 28年1月29日、30日 24人参加 対象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関で古文書等の担当者 主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館 協力：国宝修理装こう師連盟 ○IPM普及のための研修会 ・「環境調査報告会」 27年5月21日 40人参加 対象：環境関係者 ・「ミュージアムIPM研修」(基礎編・技術編・実践編) 27年9月9日～11日(基礎編)、27年11月9日～11日(技術編)、28年2月7日、8日(実践編) 延べ：58人参加 対象：全国の博物館学芸員								
								
文化財保存修復研修								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経年変化	23	24	25	26
保存修理事業者を対象とした研修会 開催回数	7回	—	—	変化	10	7	6	9
参加者数	179人	—	—		263	280	139	175
【年度計画に対する総合評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 インターンの受け入れや研修会など計画どおりに実施することができた。							
【中期計画記載事項】保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 地元の教育委員会等と連携し、修理技術者やIPM従事者の協力を得ながら基礎から実践までの研修を中期計画どおりに実施できた。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(4) 収蔵品の貸与							
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 救仁郷秀明					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 国内の博物館等123機関に910件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 高知県立歴史民俗資料館・愛媛県立歴史文化博物館と協力して、考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館) 1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2) 海外の美術館・博物館等11機関に82件の作品を貸与した。								
【補足事項】 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 東京国立博物館では、考古資料相互貸借事業経費により、高知県立歴史民俗資料館に27件、愛媛県立歴史文化博物館に4件を貸与して、高知県立歴史民俗資料館から12件、愛媛県立歴史文化博物館から28件を借用した。借用品により、特集「高知・愛媛の考古学」を開催した。 (東京国立博物館) 1) 大韓民国の国立中央博物館で開催された「古代仏教彫刻展」には、当館から重要文化財7件を含む9件の文化財を貸与して、幹部3名が開会式に列席し、作品展示・撤収・輸送随伴に延べ2名の人員を派遣した。								
 <p>韓国国立中央博物館 「古代仏教彫刻展」図録</p>								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	991件	—	—	変化	905	1,295	1,137	1,130
うち国内の貸与件数	910件	—	—		865	1,252	1,086	1,059
うち海外の貸与件数	82件	—	—		40	43	51	71
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 平成館の改修に伴う考古資料貸与業務停止により貸与件数は減少したが、その他の分野においては通常どおり貸与業務を行うことができた。							
【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき順調に成果をあげている。							


中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(4) 収蔵品の貸与							
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。								
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 宮川禎一					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 77機関に対し303件の館蔵品・寄託品貸与を行った。(うち海外の2機関に対し10件) 館蔵品の貸与件数：157件 寄託品の貸与件数：146件 計：303件 ○27年度も継続してウェブサイトにて「貸出作品リスト」の公開を行った。								
【補足事項】 (4館共通) 1) ・当機構内の施設間における要望も含め、積極的に貸与の要望に応じ、収蔵品の公開に努めることができた。 ・貸与に際しては必要に応じて、展示期間等の貸与条件、借用館のファシリティレポート及び警備体制、そして虫害対策などを確認することで、文化財の保全を図ることに努めながら要望に応じた。 ・国内では、東京国立博物館の「鳥獣戯画」展に国宝4件と重要文化財16件を含む35件、MIHO MUSEUM及びサントリー美術館の「若沖と蕪村」展に重要文化財1件を含む14件、奈良国立博物館開館120周年記念「白鳳」展に国宝4件と重要文化財1件を含む6件、九州国立博物館開館10周年記念「美の国 日本」展に国宝8件、三井記念美術館の「蔵王権現と修験の秘宝」に国宝3件などを貸与した。 ・海外では、韓国のサムソン美術館リウムにおける「細密可貴－韓国美術の品格」展に寄託品を1件貸与した。 ・展覧会のみならず、鳥取県公文書館からの県史編纂事業における調査研究のための要望に応じ、考古2件を貸与した。 ○東京国立博物館、九州国立博物館等の関西方面における集荷、返却の際に一時保管庫を提供した。								
								
九州国立博物館開館10周年記念 「美の国 日本」展 貸与品：館蔵品 国宝「十二天像 帝釈天」								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	303件	—	—		429	304	626	582
うち国内の貸与件数	293件	—	—		426	301	623	570
うち海外の貸与件数	10件	—	—		3	3	3	12
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 貸与件数は26年度を下回ったが、当館の展示等への影響のない範囲で積極的に対応することができ、館外における収蔵品の公開に努めることができた。						
【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当館における展示履歴及び保存状況を勘案しながら、適切に要請に対応することができ、中期計画に対し順調に成果を上げることができた。						


中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(4) 収蔵品の貸与							
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。								
担当部課	学芸部列品室	事業責任者	室長 吉澤 悟					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 館蔵品及び寄託品を、国内外合わせて36の機関に、計145件貸し出した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 愛媛県立歴史博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。								
【補足事項】 1) 収蔵品の貸与 ○貸与先36機関の内訳 ・国立6件、公立19件、私立9件、海外2件 ○貸与作品145件の内訳 ・国宝13件（館蔵品3件、寄託品10件） ・重要文化財46件（館蔵品17件、寄託品29件） ・その他86件（館蔵品47件、寄託品39件） ・貸与した館蔵品67件の内訳 （絵画19件、彫刻5件、書跡5件、工芸7件、考古31件） ・貸与した寄託品78件の内訳 （絵画40件、彫刻8件、書跡9件、工芸17件、考古4件） 1) 相互貸借事業における貸与・借用品数 ・愛媛県立歴史文化博物館（貸与品：館蔵品2件、借用品：6件） ・和歌山県立紀伊風土記の丘（貸与品：館蔵品1件、借用品：2件）								
								
貸与品：国宝 伝教大師尺牘（九隔帖） 館蔵品								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	145件	—	—		118	102	135	149
うち国内の貸与件数	137件	—	—		113	100	135	149
うち海外の貸与件数	8件	—	—	5	2	—	0	
【年度計画に対する総合評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 計画通り貸与申請に対して慎重かつ積極的に対応できた。貸与件数も例年に並んで100件を超える貸与を行った。本年も考古相互貸借事業の実施があり、地域を結ぶ文化財公開の実績を作ることができた。							
【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】 評価： B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画にもとづき、貸与申請に対しては慎重かつ可能な限り希望に応えられるよう対処した。文化財の公開と活用に積極的に貢献でき、中期計画の進展は順調であったと評価される。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(4) 収蔵品の貸与							
【年度計画】 (4館共通) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。								
担当部課	学芸部文化財課			事業責任者	課長 富坂 賢			
【実績・成果】 1) 国内 25 機関・海外 1 機関に収蔵品及び寄託品を貸与した。 (機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。)								
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) 国内の貸与先機関は、下記のとおりである。								
<ul style="list-style-type: none"> ・国及び国立博物館 文化庁、京都国立博物館、奈良国立博物館 ・地方公共団体及び公立博物館・美術館 (福岡県内) 九州歴史資料館、甘木歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、求菩提資料館、福岡市博物館、北九州市立小倉城庭園、海の道むなかた館 (福岡県外) 奈良県立美術館、吉野ヶ里歴史公園、富山県水墨美術館、下関市立考古博物館、和泉市久保惣記念美術館、神奈川県立歴史博物館、愛媛県歴史文化博物館、大分県立美術館、高槻市立今城塚古代歴史館、岡崎市美術博物館 ・私立博物館・美術館及び私立団体 公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館、根津美術館 <p>海外の貸与先機関は、下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台北國立故宮博物院南部院区 								
 <p>根津美術館「青山の至宝－初代根津嘉一郎コレクションの軌跡－」 出品 重要文化財 大燈国師墨蹟〈上堂語/（風墨蹟）〉</p>								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
貸与件数	90件	—	—	変化	119	113	143	101
うち国内の貸与件数	88件	—	—		118	105	117	89
うち海外の貸与件数	2件	—	—		1	8	26	12
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。							
【中期計画記載事項】収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画どおり、公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施し、展示等の充実に寄与した。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。								
担当部課	学芸研究部 総務部	事業責任者	部長 谷 豊信 部長 栗原 祐司					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、139の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(25件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(56件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(6件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(22件) ・博物館の管理運営に関わる助言(30件) (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査を実施し、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。								
【補足事項】 (4館共通) 1) ○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力 ・静岡市教育委員会静岡市文化財保護審議会委員 ・独立行政法人国立公文書館重要文化財「東京府・東京市行政文書」保存修理事業企画提案審査会外部委員 他 ○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言 ・サントリー美術館 「逆境の絵師 久隅守景 親しきものへのまなざし」展企画協力 ・高知県立歴史民俗博物館 特別展開催にかかわる助言 他 ○講演会やセミナー等における講演等での協力 ・ユネスコ アジア博物館学芸員研修講師 ・東京国立近代美術館 「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業2015」研修講師 他 ○作品の展示・保存環境についての調査・指導 ・埼玉県立近代美術館、新居浜市美術館、町田市立国際版画美術館、北海道博物館、富山県水墨美術館 他 (東京国立博物館) 1) 環境調査を実施した新規貸与館は、8館。								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館 への援助・助言件数	139件	-	-		126	85	114	119
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 公私立博物館・美術館等の展覧会や運営、環境調査等に対して、内容・件数ともに適切に援助・助言を行うことができた。							
【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づいて援助・助言を着実に行うことにより、我が国における博物館の中核としての機能が強化されている。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 伊藤嘉章					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術等が開催する展覧会及び運営に対し、65件の援助・指導を行った。 ・文化財の展示にかかる援助・助言(9件) ・文化財の調査、保存、修理に関する指導・助言(19件) ・講演会、セミナー等での協力(13件) ・文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力(24件)								
【補足事項】 1) ○文化財の展示にかかる援助・助言 ・福島県立美術館 特別展「飛騨の円空」撤収・梱包に関する指導 ・サムソン美術館リウム 「細密可貴—韓国美術の品格」展の展示に関する指導 など ○文化財の調査、保存、修理に関する指導・助言 ・山口市教育委員会 常栄寺所蔵彫刻の現地調査の指導 ・伊賀市教育委員会 指定文化財候補(伊賀焼)の調査に関する指導 など ○講演会、セミナー等における協力 ・香港中文大学文物館 「万象神采：二義草堂蔵近代中国書画專題講座」の講演 ・プーシキン美術館 『樂—茶碗の中の宇宙』展にて講演 など ○文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力 ・文化庁 文化審議会専門委員(文化財分科会) ・島根県文化財保護審議会にて調査に関する指導 など								
								
プーシキン美術館 『樂—茶碗の中の宇宙』展 会場								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館 への援助・助言件数	65件	-	-		91	65	43	29
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 援助・助言の件数、内容ともに十分な実績をあげることができた。							
【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、援助・助言を着実に実行できている。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館) 1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 内藤 栄					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対する援助・助言は、総計58件を実施した。								
【補足事項】 ・ 展示にかかる援助と助言としては、美馬市寺町防災交流センターで開催された特別展「お帰り故郷へ—奈良国立博物館所蔵の郡里廃寺跡出土品たち—」において11月14日に現地で実施した展示指導など、5件があった。 ・ 文化財の調査、保存、修理にかかる援助と助言としては、6月1日に法隆寺において所蔵品の保存状態について助言した一件など、16件があった。 ・ 講演会やセミナー等における講演等での協力としては、東大寺で9月2日に開催された第4回「子ども文化財防火教室」での講演など、15件があった。 ・ 文化庁や地方公共団体、その他各種団体等の文化財関係事業への協力としては、「東アジア文化都市2016奈良市」準備委員会の委員として会議に3回出席した奈良市への協力など、17件があった。 ・ 博物館等の運営にかかわる援助と助言としては、米沢市上杉博物館の資料収集委員会の委員として助言した件など、5件があった。								
								
<p>〈挿図〉美馬市寺町防災交流センターで開催された、特別展「お帰り故郷へ—奈良国立博物館所蔵の郡里廃寺跡出土品たち—」チラシ表</p>								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評定	経年変化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	58件	-	-		98	67	71	58
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 公立・私立の博物館や美術館が開催する展覧会に技術的な指導を実施し、また運営への助言も実施することができた。定量的項目の数値が大幅な増減をしていないためこの評価とする。今後も公私立博物館等への積極的な協力を継続する。							
【中期計画記載事項】公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 27年度、徳島県や埼玉県博物館等、これまであまり交流のなかった機関への援助・助言等の協力があり、人的ネットワーク形成の面で一定の成果があるなど、中期計画を順調に達成できた。今後も公私立博物館等との協力関係の構築に積極的に取り組む。							

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (九州国立博物館) 1) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティア等のためのIPM(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 小泉恵英					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(67件) ・文化財の調査に係る助言(4件) ・文化財の保存修理にかかる援助、助言(18件) ・作品の展示及び運営等についての指導、助言(27件) ・講演会、セミナー等における講演(18件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(0件) (九州国立博物館) 1) 「古文書保存基礎講座」を実施予定(28年1月29日～30日) 2) 公私立博物館・美術館等職員・ボランティア等のためのIPM(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催した。								
【補足事項】 1) 古文書保存基礎講座 主 催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館 協 力：国宝修理装演師連盟 対 象：福岡県内を中心とする地域の博物館・美術館・文化財関連機関で古文書等を担当するもの。 内 容：文化財修理についての理念を学ぶ。古文書の形態や整理法も学び、取り扱い時の応急的な手当て方法を実習する。 実施日：28年1月29日、30日 参加者：24名 2) ミュージアムIPM研修 主 催：九州国立博物館 対 象：博物館等文化施設でIPMに従事する職員・ボランティア等。 内 容：博物館等文化施設において必要とされるIPMの基礎、技術、実践等について講義と実習を行う。 実施日：基礎編 27年9月9日～11日、技術編 27年11月9日～11日、 実践編 28年2月7日、8日 参加者：基礎編29名、技術編16名、実践編13名								
								
IPM研修(基礎編)実習風景								
【定量的評価】項目	27年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	23	24	25	26
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	67件	-	-		97	109	64	57
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		計画通りに行った。						
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：B		講座及び研修会等を実施しており、中期計画を順調に達成した。						